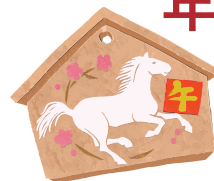


小杉山円満寺 令和八年 新春号

円満寺だより

午 謹賀新年



住職放談

大晦日から元旦にかけて、大雪に見舞われ、境内の雪かきに追われました。護摩祈禱を終えるたびに雪かきと大忙しでしたが、多くの皆さまにお参りいただきありがとうございました。

ご祈禱の後の法話では、年末恒例の京都清水寺管長さんの揮毫が「熊」ということで、その話から始めました。確かに全国的に熊の出没騒動の一年でした。普段は出回るのが珍しい熊肉ですが、わたしまでいただきました。その肉をさらに知り合いにも分けてあげました。捕獲解体が多数あった証だと思えます。冬眠に向けて柿が狙われ、残念ながら伐採を余儀なくされた方も大勢いたようです。今年は、熊との知恵比べ、上手く共存できればと思います。

今年は午年 飛躍の年

午年は、情熱と勢いが高まり、大きな飛躍のチャンスとなる年です。特に今年は「丙午（ひのえうま）」に当たり、火の力が重なることで、エネルギーに満ち溢れるパワフルな年とされています。さらに十二支の七番目で、俊敏さ、勇気、行動力の象徴です。古くから馬は人々の暮らしを支え、移動や農耕、戦に不可欠な存在でした。肥を積んだ馬そりが田んぼに出ると、もうすぐ春だとその訪れを感じたものです。

午前・午後には午が付く

子年から始まる干支、午は七番目に当たります。一日二十四時間を、十二支で割ると二時間おきに干支時間となります。ちょうど子午と重なり、午を中心としてその前を午前、そのあとを午後と呼ぶようになりました。

「人間万事塞翁が馬」

人生の吉凶は予測できないという中国のことわざです。「昔、北の塞（とりで）に住む老人の馬が逃げ出したが、数か月後に駿

馬を連れて戻ってきた。すると、その駿馬に乗った老人の息子が落馬して、足の骨を折ってしまった。しかし、その後起こった戦争での兵役を免れ、命が助かった。」と。

良いことがあってもそれが悪いことにつながったり、悪いことがあってもそれが良いことにつながったり、人生は予測できないということです。目の前の出来事に一喜一憂することなく、長い目で物事を見ることの大切さを伝えています。

令和八年境内整備予定

昨年は、五月に山門両脇のケヤキの枝を、九月にはイチヨウの枝を下ろしました。風で枝が落ちたり、大量の落ち葉が飛んだり、近所にも大変迷惑をかけてきました。お陰でその心配が随分と減りました。

また、雷神堂脇の小稲荷堂を解体し、ご本尊を御蔵稲荷堂に合祀しました。小稲荷堂は、今にも倒れそうになりながら頑張ってきましたが、これ以上雪に耐えられないと判断しました。それに淡島堂・虚空蔵菩薩堂は、後ろの奥の院を解体し、少し張り出した下屋に、お厨子を移しました。屋根が大きく、移すのにクレーン車を

使い慎重に進めました。戸を開けると、お厨子が前面に出てその迫力が感じられます。

このお厨子は、太田の遍照院に祀られていた淡島宮を遷座したものです。維新の廃仏希釈、明治の神仏分離令により、維持管理が困難となり、円満寺に遷座されたものです。

その他、歓喜天堂脇の小さな祠。経年劣化と雪の重みで壊れていたものを、予備の祠で整理しました。

令和八年は、淡島堂わきの四国西国坂東秩父百八十八ヶ所霊場の石碑を整備する予定です。

ご寄付を随時受け付けております。宜しくお願いいたします。

「円満寺そば」今年の予定

昨年、四月、五月、六月、七月、十一月、十二月の第二日・月を中心に、「円満寺そば」を開店しました。初めての企画でしたが、大勢の方々においでいただきありがとうございました。令和八年は、三月、四月、五月、六月、七月、十一月、十二月を予定しております。詳細は、後日お知らせいたします。

追…「円満寺そば」が産業栽培メディア月刊誌『コロンブス』十二月号に掲載されました。

節分星まつり祈禱

二月三日(火)

午後三時 歓喜天堂

・護摩祈禱・法話・豆まき・福引

◎祈禱料

・星まつりお守 二五〇円

・星まつりお札 三〇〇〇円

五〇〇〇円

一〇〇〇〇円など

※申込書にご記入の上、ファックス・郵送・またはお寺にご持参ください。

※市外、県外からの方は、お守りとお札の配送も承ります。

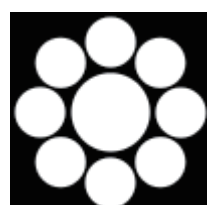


星まつりとは

古来、人は星の位置によって事の吉凶を占ってきました。現代に伝わる真言宗においては、運勢を司る星を祭り、供養すること、祈願者の息災を祈ります。星を供養することから、星供とも呼ばれます。円満寺を建立した戸沢藩の家紋は九曜の紋(右下)であり、九曜の紋は一年ごとの運勢を司る当年星という九つの星を太陽の周りに配した紋様です。そのため円満寺にとっても星祭りは重要な行事の一つです。

節分は旧暦の年越しにあたるため、その節分に、新年の吉祥息災を祈って星祭りを行うことが多いです。お寺によっては、年末や一月に行うこともあります。

節分において豆まきを行うのは、宮中の行事であった鬼を払う追儺式の名残であるという説があります。星供も豆まきも、災難や邪気を払うことをその目的としています。年が変わる重要な節目には、無事息災を祈ることは、今も昔も変わりません。



だいしょうかんきてんはつえんにち

大聖歡喜天初縁日

二月二十二日(日)

○浴油供

○護摩祈祷

・正午

・午後三時

○おさいど

午後六時



初縁日の護摩祈祷は、例年二月の第三日曜日に執り行っておりますが、今年は二十二日に執り行います。夜は御柴灯を行いますので、古いお札やお守りなどをお持ちください。

縁日は本尊の吉祥日として、この日にご祈祷や祭事を行うことが、何よりも吉祥であると思われる日です。また、多くの方々と一緒にお祈りを捧げることで、諸縁が益々円満になるといわれます。お札などを頼まらない方でも、ご祈祷には参列できますので、ご家族での参詣をお待ちしております。

歡喜天とご利益について

歡喜天は聖天とも呼ばれ、象の頭と人の体をしたインド由来の神さまが仏教に取り入れられたものとされています。歡喜天は他の神さまよりもとくに諸願成就に優れるとされ、全国的に熱心な信仰の対象となってきました。

一方で、昔の逸話では、歡喜天さんは七代の福を一代に集めてしまうため、あまり求めすぎると後代の子孫が苦勞するというように言われたりもします。我利我欲にとらわれた願いばかりではいけないよという言い伝えです。

この世の財は有限です。私有したものが大きくなると、それを維持するのも大変となります。すでに与えられてきたもの、恩恵を受けてきたものに目を向ければ、すでに利益に溢れていたと気づけるようになります。中々難しいですが…。

心の持ちようといえばつまらないような気がしますが、抱える問題を解決し、願いを叶える根本は最終的には心を知ることなのだと、仏教では説かれます。

のぼり旗

奉納のご案内

お願い事を込めたのぼり旗を奉納し、一層のご加護をお祈りしませんか。

のぼり旗の種類と

最たる利益



○大聖歡喜天 — 開運・所願成就

○大聖不動明王 — 息災・厄除け・先祖供養

○十一面觀音菩薩 — 子宝・安産・良縁

○南無大師遍照金剛 — 息災・厄除け・安全

○南無虚空藏菩薩 — 学業・智恵

○子育て地藏尊 — 子育て

○稻荷大明神 — 豊作・商売

ご奉納いただいたのぼり旗に、「願い事」「名前」を書いて、護摩祈祷の後、境内に掲げます。

△期間▽ 奉納日よりおよそ一年間

△奉納料▽ 一本 二五〇〇円

お申し込みは年中受け付けております。

願い護摩木 奉納のご案内

円満寺では毎月一日と十七日に護摩祈禱を行っております。護摩祈禱とは、智慧を象徴する炎をあげ、そこに良い香りのする供物を投じること、本尊さまを供養し、祈りを捧げる真言宗に伝わる修行法です。その炎にくべる護摩木に願い事と氏名を書いてご奉納くださいますと、護摩祈禱の際に一緒にくべて、お焚き上げします。

奉納料一本一〇〇円



ひふせいへい

円満寺火伏御幣について

節分と初縁日の護摩祈禱において、火の用心、火難除けの願いをこめた火伏御幣を加持いたします。台所や玄関などの高く清浄な場所にお飾りください。ご志納料 一体 四〇〇円



円満寺の恒例年間行事

- 一月 一日 初詣 元旦祈禱
- 一月 小寒（五日） 寒修行入り
- 二月 三日 節分星祭り
- 二月 二十二日 歓喜天初縁日祈禱
御柴灯（午後六時）
- 三月 二十日 春彼岸中日
- 四月 八日 花まつり
- 五月 十七日 青葉祭り
- 七月 二十五日 前夜祭流しそうめん
- 七月 二十六日 歓喜天夏祭り
- 九月 二十三日 花火大会
- 十一月 二十三日 秋彼岸中日
- 十二月 十七日 大黒天祭 そばと胡桃餅
納め聖天 護摩

円満寺の月並み行事

- ・ 朝護摩祈禱 参列無料
毎月 一日 朝七時
- ・ 写経会（般若心経を学ぶ会）
毎月 十七日 朝七時、午前十時
午後十時
護摩に参列の後、写経へ
午後一時
- ・ 心経会
毎月 二十一日 夜七時 本堂

★般若心経とは

写経会やご祈禱などで般若心経を唱えます。大変ありがたいお経です。

住職曰く、その心は「諸行無常」と解く。

全てはうつろうもので、止まることがない。なのになぜ過去に執着し、迷える人となるのか。過去は経験として生かすもので、こだわり止まるものではない。生かす心こそが般若（知恵）であり、仏の力を戴くことで、物事が成就していくのである。真言宗では、それを「三力偈」として、生きる力の源として導いている。

成就する三つの力

以我功德力 自分の努力

如来加持力 仏の助力

及以法界力 周囲の応援の力

普供養爾住 成就への感謝の心

新庄聖天 円満寺

〒99610001 新庄市五日町5914

☎02333 22 0433

fax02333 32 0166

令和8年1月吉日発行

発行人 山尾瑛紀